

□ (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 4 点 (2 点 × 2)

X Ⅱ ホ Y Ⅱ イ

問二 4 点

ハ

問三 4 点

ニ

問四 4 点

ニ

問五 26 点 (8 点 × 2 + 10 点)

(1) 【必要性】 (8 点)

(模範解答例)

A ○ 2 点

B ○ 6 点

現象を説明するために、動物を犠牲にするしか方法がないから動物を用いるということ。(8 点)

各加点要素の加点の条件

【A・B に関して部分採点】

A 現象を説明するため、(2 点)

B 動物を犠牲にするしか方法がないから動物を用いる(6 点)

▲「犠牲」もしくは「動物実験」という言葉が無い場合、▲2 点減点。

【妥当性】(8点)

(模範解答例)

A ○2点

B ○6点

動物を犠牲にするという計画が、現象の解明に適したデザインであるということ。(4点)

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 動物を犠牲にするという計画が(2点)

※「犠牲」という語が無い場合不可×0点。

B 現象の解明に適したデザインである(6点)

(2) 10点

(模範解答例)

A ① ○3点

A ② ○3点

科学は、知りたいがために知ろうとするという

人間の本質の一つを成す欲望に基づくものであり、

B ○4点

有用性はそうした欲望の結果でしかないから。(10点)

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A ① 科学は、知りたいがために知ろうとするという(3点)

A ② 人間の本質の一つを成す欲望に基づくもの(3点)

B 有用性はそうした欲望の結果でしかない(4点)

▲Aで説明した欲望の結果であるという構図でない場合、▲2点減点。

問六 各4点

イ・ホ (順不同可)

□ (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 8 点 (2 点 × 4)

- 1 悲惨 (「悲酸」も可)
- 2 窮状
- 3 勧告
- 4 受諾

問二 6 点

・人間の普遍的な愛他精神 (11 字)

もしくは

・人間の中に存在する愛他性 (12 字)

※抜出問題のため解答通り以外は不可※。

問三 6 点

口

問四 12 点

(模範解答例)

A ○ 4 点

B ○ 4 点

人間には、愛他的行動をとらうとする性質と、利己的な騙しごまかして自己を有利にしようとする性質とが

C ○ 4 点

同時に存在するということ。(58 字)

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

※全体の字数が29字以下のものは全体不可(0点)

A 人間には、愛他的行動をとろうとする性質と(4点)

※「双生児」の一方である「愛他的行動」について説明していないものは、要素A加点なし

B 利己的な騙しによって自己を有利にしようとする性質とが(4点)

※「双生児」のもう一方である「利己的な騙し」について説明していないものは、要素B加点なし

△「騙す行為」のみは△2点。「利己的」という説明が必要。

▲Aとの対比として書かれていない場合▲2点減点

C 同時に存在するという事(4点)

※「(双生児として)産み落とされた」を言い換えていないものは、要素C加点なし

△「同時に生まれた」など、比喻表現の言い換えが十分でない場合は▲2点減点で△2点。

問五 12点

(模範解答例)

A○4点

B○4点

個体や個別集団を維持するために必要とされる騙しは、人類総体の存続に必要な愛他的行動を

C○4点

妨げるものになる可能性をもつから。(59字) (12点)

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

※全体の字数が29字以下のもは全体不可(0点)

A 個体や個別集団を維持するために必要とされる騙しは(4点)

※「その一方」の説明として、「個体・個別集団の維持に必要な騙し(狡智)」ということを描いていないものは、要素A加点なし

B 人類総体の存続に必要な愛他的行動を(4点)

※要素Aが、「人類総体の存続に必要な愛他的行動」と関係しているということを説明していないものは、要素B加点なし

C 妨げるものになる可能性をもつから(4点)

※「切り捨てる」理由を説明していないものは、要素C加点なし

※「切り捨てる」の説明なので、「競合する」などは不可※。

○「個に必要な騙し」は「総体に必要な愛他」にとって「邪魔だ」としているものが正しい説明。
！「個に必要な騙し」⓪「総体に必要な愛他」ㄱ という構造の答えは要素としては正しそうですが、
文の内容が不可であればもちろん✖。

問六 6点

二

三 (古文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 1点×3＝3点

甲 しぐれ 乙 みす 丙 ひたたれ

「ポイント」

✖ いずれも正解以外は✖。甲「じう」・乙「みすだれ」も✖。

問二 2点×3＝6点

① ニ ② ホ ③ ロ

「ポイント」

✖ いずれも正解以外は✖。

✖ 同じ記号を重複して答えている場合は、一つが正解であっても、いずれも不正解とする。(設問で、「記号を重複して答えてはならない」と断りがある。)

問三 1点×3＝3点

i イ ii ハ iii ホ

「ポイント」

✖ いずれも正解以外は✖。

✖ 同じ記号を重複して答えている場合は、一つが正解であっても、いずれも不正解とする。(設問で、「記号を重複して答えてはならない」と断りがある。)

問四 3点×3＝9点

a ハ b ニ c ロ

「ポイント」

✖ いずれも正解以外は✖。

✖ 同じ記号を重複して答えている場合は、一つが正解であっても、いずれも不正解とする。(設問で、「記号を重複して答えてはならない」と断りがある。)

(1) (解答例) (4点)

A ○1点 B ○1点 C ○2点

思い悩む 私に 声を聞かせてくれるな

※「もの思ふ 身に 声な聞かせそ」の現代語訳

「採点方法」 各要素単独採点。 「字数」 指定なし。

「ポイント」

A【1点】もの思ふ ↓ 思い悩む

- 「悩む・物思いにふける・物思いに沈む・思いにふける・憂鬱に思う・憂鬱な・物思いをする」等でもよい。
- ×「物思う」のままは×。

B【1点】身に ↓ 私に

- 「この身に・我が身に」等でもよい。
- ×「身に」のままや、「自分に」は×。

C【2点】声な聞かせそ ↓ 声を聞かせてくれるな

- 「声を聞かせるな」等の意があればよい。「声」は「鳴き声」でもよい。よって、「鳴き声を聞かせないでくれ」でも【2点】。
- △「声を聞かせてはいけない」は【1点】。

(2) (解答例) (3点)

A ○1点 B ○2点

さあ
いらっしやい

「採点方法」 各要素単独採点。

「字数」

指定なし。

「ポイント」

A 【1点】さあ ↓ さあ

○ 「さあ」の意があればよい。

B 【2点】させ給へ ↓ いらっしやい

△ 「来い・行こう」の意があれば【1点】。

○ 右の意がある上で、尊敬の意もあれば【2点】。

よって、「おいでなさい・おいでなさいませ・おいでください・来なさい・来て下さい・いらっしやってください」「等でも【2点】。

A (解答例) (6点)

A〇3点

B〇2点

C〇1点

あてにしていた祐成の愛を誓った 言葉が、いつの間にか変わってしまったことを 恨めしく思う心情。(45字)

※「頼みし末もいつしかに、変はり果てぬる言の葉かな。」に、「虎」のどのような心情が表れているか、表現に即して、五〇字以内で説明する。

【採点方法】 各要素単独採点。※A Bには条件あり。 【字数】 五〇字以内。

【ポイント】

A【3点】あてにしていた祐成の愛を誓った

※ Bが0点の場合は得点できない。

▲「あてにしていた」は「頼みとしていた・頼りとしていた・信じていた」等でもよい。これがない場合は【マイナス1点】。

○「祐成の」は「十郎の・曾我十郎の・曾我十郎祐成の」でもよい○。

※「曾我の・夫の・恋人の」等は×。

▲これがない場合、誤っている場合は【マイナス1点】。

○「愛を誓った」は「愛の・誓いの・約束の・将来を誓った・恋の」等でもよい。

▲これがない場合は【マイナス1点】。

B【2点】言葉が、いつの間にか変わってしまったことを

※ Aが0点の場合は得点できない。

○「言葉が」は「誓いが・約束が」、または「言ったのが」等でもよい。

※この意がない場合は×。

○「変わってしまった」は「変わった・信じられなくなった・嘘だった・本当でなかった・実行されなかった・訪れなくなった」等でもよい。

△「言葉・誓い・約束」などの意がなく「心変わりした」の意がある場合は△【1点】。

○「いつの間にか」は「いつしか」等でもよい。

▲これがない場合は【マイナス1点】。

C【1点】恨めしく思う心情。

○「恨めしく思う・憎らしく思う・悲しむ・寂しく思う・嘆く・悲嘆する・不安になる・不審に思う・不信感を抱く・不満に」等の意があればよい。

○心情の説明になっていれば、文末が「心情・気持ち」等になっていなくてもよしとする。

C (解答例) (6点)

A 〇2点

B 〇1点 C 〇2点

祐成がまったく通って来なくなったことが 恨めしく、何かにつけ世の中のことが

D 〇1点

じまひがなく感じていられる心情。 (49字)

※「かき絶え給へる恨めしきといひ、よろづ世の中のおぢきなく」に、「虎」のどのような心情が表れているか、表
現に即して、五〇字以内で説明する。

「ポイント」

A 【2点】 祐成がまったく通って来なくなったことが

※BもDも0点の場合は得点できない。

△「通いが途絶えたのが」、または「連絡が途絶えたのが」の意があれば【1点】。

○右の意がある上で、「祐成の・祐成が・祐成からの」等の意があれば【2点】。「祐成」は「十郎・曾我十郎・曾
我十郎祐成」でもよい。

B 【1点】 恨めしく、

○「恨めしい」の意があればよい。「憎らしい・悲しい・寂しい・嘆かわしい・不安だ・不審だ・信じられない・
不満だ」等でもよい。

C 【2点】 何かにつけ世の中のことが

※BもDも0点の場合は得点できない。

△「世の中が・世が・世間が・人生が・生きているのが」、または「男女の仲が・恋愛が・祐成との関係が」の意
があれば【1点】。

○右の意がある上で、「何かにつけ」の意があれば【2点】。「何かにつけ」は「すべて・あらゆることが・なにも
かも」等でもよい。

D 【1点】 つまらなく感じられる心情。

○「つまらない・おもしろくない・甲斐がない」等の意があればよい。

(解答例)

A○2点

B○1点

C○1点

D○1点

E○1点

「ものはめつたにないもののほうが価値がある」

「とは言うものの、」

「どうして」

祐成は

「そのようにばかり」

F○2点

稀にしか通って来ないのだろうか。

「採点方法」 各要素単独採点。

「字数」

六〇字以内。

「ポイント」

A【2点】「ものは稀なるを貴しとす」 ↓ 「ものはめつたにないもののほうが価値がある」

○「ものは」は「物事は・何事も」等でもよく、なくてもよい○。

✖これが「男の訪れが」等、他の意となっている場合は✖。

○「めつたにない」は「めずらしい・稀な・希少な・ほとんどない」等でもよい○。

✖これがない場合は✖。

○「価値がある」は「貴重だ・尊い・貴い・素晴らしい・甲斐がある・よい」等でもよい○。

✖これがない場合は✖。

B【1点】「と言へども、」 ↓ 「とは言うものの、」

○「というが・と言うけれども・と言う言葉があるが・と言われるが」等でもよい。

C【1点】何とて ↓ どうして

○「なぜ・なんのために・どのような価値があつて」等でもよい。

D【1点】(主語補い) ↓ 祐成は

○Fの「うとき」の説明として「祐成」が関係していることがわかるようになっていけばよい。

○「祐成」は「十郎・曾我十郎・曾我十郎祐成」、または「あの人・あなた」等でもよい。

E【1点】「さのみ」 ↓ 「そのようにばかり」

○「それほど・そんなに・そのように・これほど・こんなに」等の意があればよい。「ばかり」の意はなくてもよい。

F【2点】「うときやらん」 ↓ 「稀にしか通って来ないのだろうか」

○関係が浅いこと、もしくは、薄情なことが言われていればよい。祐成が主体でない「私は祐成に会えないのか・疎遠なのだろうか」等でもよい。

△右の意があるが「のだろうか・のか」がない場合は【1点】。

問八 1点×2＝2点

X 万葉集 Y 伊勢物語

「ポイント」

- ✖ いずれも正解以外は✖。
- ✖ かなを使っている場合は✖。

四 漢文 50点

問一 3点

(解答) 七言律詩

* 解答通り

✕ 「律」「詩」の誤字は不可✕。

- 1 「律」が人偏になっている。
- 2 「律」の旁の横棒の数が違う。
- 3 「詩」が「詞」になっている。
- 4 「詩」の「言」が草書になっている。
など。

問二 3点

二

問三 4点×2＝8点

A〇2点

a たくさんの

B〇2点

花びら

(4点)

「加点点ポイント」

A 「たくさんの」は「大量の」「多くの」「いっぱい」「無数の」なども可〇。

✕ Bに点が無い場合、Aだけでは得点できない。

B 「花」のみは△1点。

A〇2点

b 曲江池の

B〇2点

ほとり

(4点)

「加点点ポイント」

A

〇 「曲江の」も可。可〇。

✕ 「川の」「河の」は不可✕。

△ 「川辺」は1点。

△ 「池の」のみは1点。

B

〇 「畔」「辺」「岸边」「縁」「水際」も可〇。

△ 「そば」「側」は1点。

問四 5点

ハ

問五 6点

A ○ 1点

B ○ 2点

C ○ 3点

「解答例」

大量の

酒を飲むことを

遠慮するのはよどど

どいこと。

(6点)

「加点ポイント」

A

○ 「大量の」は「たくさん」「多くの」なども可○。

B

× 「唇(口)に入る」は不可×。

C

△ 「どういうことか」を問うているが、「厭ふ莫かれ」をそのまま例えば「嫌ってはならない」のように訳してある場合、訳があっていたら、△1点。

問六 3点×3＝9点

欲尺花・巢翡翠・臥麒麟

×誤字は不可×。

問七 5点

A (前半)

B ○ 2点

A ○ 3点

「解答」

すべからく

かう(こう)らくす

し。(5点)

「加点ポイント」

○ 現代仮名遣いでも可○。

× 「すべてひらがな」指定。漢字を一つでも含む場合、全体×0点。

A

○ 「すべからくべし」の再読文字が読めていて○3点。

△ 「すべからく」のみ読めている場合△1点。

B

× 「ぎょうらくす」「こうらくす」など不可。×0点。

問八 8点

「解答」 空しくはかない A○1点
俗世の名利のために、自分の身を B○2点
束縛されている C○1点
必要はない D○2点
E○2点

どう感嘆。(8点)

「加点ポイント」

A

- 「空しく」「はかない」はどちらかでも可○。
- 同内容の「つまらない」「意味がない」「価値がない」なども可○。

B

- 「俗世」は「世俗」、「名利」は「名誉」「名声」「利益」なども可○。
- △「俗世」・「名利」の一方にあたる語のみの場合△1点。

C

- 「自分の」はなくとも可○。

D

- 「しばれる」「自由を奪われる」「とらわれる」なども可○。

E

- 「必要はない」は「不要だ」「無用だ」「いらぬ」なども可○。
- 「必要ない」のは、「自分の身が束縛されること」だが、「自分の身が束縛される」のは、「俗世の名利のため」なので、「俗世の名利は必要ない」というような表現も許容とする。
- △「くだらない」「おろかだ」「無意味だ」「くだわるのはおかしい」など否定的な表現は△1点。
- ▲「慨」を「概」など誤字は▲減点1点。

問九 1点×3＝3点

i ハ ii ロ iii イ

以上